

ちよつといひ話

～和合～

第50号にて極楽往生には杖と和合が大事である事が分かりました。皆様が感じ取られた和合は多分家族が仲良く平和に暮らせる様に努力する事だと理解されたと思います。それはそれで良いのですがあくまでそれは基礎であります。ですから、つづいて和合を目的とした布施行に精進してほしいのです。では一口に精進と言っても色々ありますので、ここでは五つの精進について説明します。

父母孝養の爲：子が親（含、先祖）に対し孝養をつくせば良し。

観経に父母に教養し、世の仁慈を行えとあります。

功德善根の爲：佛、法、僧の三宝を敬う事が福德円満を導く。

国土豊饒ほうじょうの爲：聖徳太子、17条の憲法、第1条に和を以って貴し。

とある如く、國の栄えを願って行動をする。

一切衆生の爲：生まれた人すべて佛となる本性をもっている故に、お互い間違いの無い様に仏道を進む事。

無上菩提の爲：煩惱も消え、迷いも消え、澄みわたる心身にもっていくこと、最高の悟りの事です。

この五つを修める事は低学年から必要です。例えば、良かれと思い注意すれば悲惨なめに遭われる方がたくさんみえます。これは共同生活の倫理が失われた結果であり、個の尊重が招いた他への無関心、J.R 西日本の会社組織と同じです。今や、大人・子供の区別なく和合共生の生活とは何たるかを教え実践させなくては亡国の道を歩く事になりそうです。ですから一日も早くもって生まれた佛性をそだてる環境を作るのが責務という事になります。

善入院油掛地藏尊